

応用物理学専攻の東日本大震災による被災および復旧状況報告

工学研究科応用物理学専攻
専攻長 佐久間 昭正

平成 23 年 3 月 11 日に発生しました東北地方太平洋沖地震による災害（東日本大震災）により、工学研究科応用物理学専攻では 6 研究室と専攻内の共通施設が入居しておりました電子情報システム・応物系 1 号館が改修不可能な程度まで崩壊するなど、甚大な被害を受けました。同窓生の皆様には応用物理学専攻の被害状況が如何ほどであったかの情報がなかなか手に入りづらく、ご心配に思われている方も少なからずおられることと思われます。このようなことから、応用物理学専攻の被災および 3 ヶ月経過しての復旧状況に関して簡単にご報告いたします。なお、復旧状況に関する情報は応用物理学専攻のホームページにて随時更新していく予定になっております。

電子情報システム・応物系実験研究棟（1 号館）

被災状況

- ・ ほぼ全ての階にせん断ひび割れが生じており、せん断破壊してコンクリート片が落下している
- ・ 階段室を中心に RC 壁にもせん断ひび割れが生じており、仕上げモルタルが階段に散乱している。
- ・ 屋上の搭屋（EV 機械室、給水タンク）は、RC 造の壁と柱が完全に崩落し崩壊寸前の状態である。
- ・ 2 機の EV のうち 1 機が 1 階に落下して破損している。
- ・ 建物は耐震性がかなり低下しており、余震により被害が進行する恐れがあるため立ち入り禁止。
- ・ 建物東外壁面は、損傷した梁からコンクリート片が落下する恐れがあるため、敷地も立ち入り禁止。



電子情報システム・応物系実験研究棟（1 号館）

地震後立ち入りが禁止された。



研究棟内部（地震直後）

仕上げモルタルが散乱している。（あちこちでこのような状態で、入るのは非常に危険な状態）



落下したエレベータ



屋上塔屋の破損状況

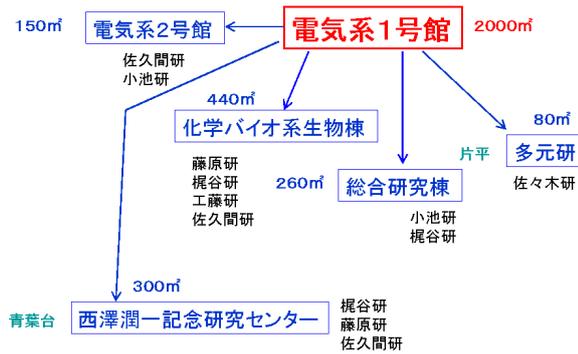


7, 8階の研究室内部（地震直後の様子）

緊急避難および復旧状況

- ・ 研究室ごとに研究科内の空いている部屋を間借りしている。（本年度の夏まで）
- ・ 西澤潤一記念センター（青葉台）、多元物質研究所、総合研究棟などにおいては、一部実験装置を移設して、研究活動（実験）を開始している。
- ・ 夏以降は、専用のプレハブを建設して移住。学生の部屋、実験室、講義室などが充実し、震災前のレベルに近いところまで復旧可能。
- ・ 2～3年後を目処に新棟を建設して完全復旧を目指している。

緊急避難場所(フェーズ I : 5-9月)



西澤潤一記念研究センターに移設中の実験装置

電子情報システム・応物系実験研究棟（2号館）

- ・ 建物が新しかったことと、2階以下がメインの部屋であったため、ほとんど被害はなく、クリーンルームは装置の一部が動いた程度であった。
- ・ 現在までにほぼ全面復旧し、研究がスタートしている。



2号館内部。ドアの周辺にひびが入った程度。



2号館クリーンルーム。一部の機械がずれた程度。

北講義棟

- ・ 1階の柱にはせん断ひび割れが発生しているものが多数あり、特に東側の2本が損傷が大きい。
- ・ 特に余震後に柱の損傷が進行し、立ち入り禁止状態が続いている。



多元物質科学研究所、金属材料研究所（協力講座）

- ・ 薄膜成長装置、イオンミリング装置などがある程度の被害は受けたものの、研究を停止せざるをえないような深刻な状況には至っていない。

教育環境の復旧

- ・ 5月9日より授業開始した。日数不足分は土曜開講、夏休み短縮でカバーする予定である。
- ・ 学部の講義：北講義棟は危険なため、南講義棟を使用している。
- ・ 大学院の講義：電気系2号館のセミナー室、会議室、他系の講義室などを借用している。



講義風景

講義は電気系の講義室の他に、他の系の講義室や会議室を借用して行っている。



学生実験風景

学生実験室は低層階であったため被害がほとんどなく、実験はほぼ予定通り行うことができている。



ソフトボール大会

毎年恒例のソフトボール大会も開催された。試合後の打ち上げは、この春竣工したばかりの新しい生協の食堂で行った。



学生の大部屋

もともとゼミ室であった部屋を学生の大部屋として使用している。